2014年度(H26) 第1回 内部評価委員会の結果

1. 内部評価委員会の概要

2014年度第1回内部評価委員会においては、港湾空港技術研究所理事長をはじめとする研究所役職員で構成する委員により、2013年度に終了した研究実施及び研究テーマの事後評価、2014年度の特定萌芽的研究(追加分)の採用候補の選定などを行うものである。

なお研究評価を効率的に行うために2014年度より研究評価要領を改訂し、研究実施項目の評価を重視して実施することとした。

評価は、研究実施項目(15件)、特定萌芽的研究(追加応募4件)について行われた。

2. 内部評価委員会の結果

2.1 テーマ内評価会の開催状況

内部評価委員会に先立ち、研究テーマ毎にテーマ内評価会を開催し、2013年度の研究成果について報告、とりまとめを実施した。

	女 ・) 、 ドリ 田 岡 女 ツ 所 催 久 が									
	研究分野		研究テーマ	開催日時						
1	安全・安心な社会を 形成するための研究	1A	地震災害の防止、軽減に関する研究	4月16日(水)10:00~12:00						
		1B	津波災害の防止、軽減に関する研究	4月22日(火)13:00~14:45						
		1C	高波・高潮災害の防止、軽減に関する研究	4月21日(月)13:15~15:00						
2	沿岸域の良好な環境 を保全、形成するた めの研究	2A	海域環境の保全、回復に関する研究	4月18日(金)13:00~15:00						
		2B	海上流出油・漂流物対策に関する研究	4月14日(月)15:00~17:00						
		2C	安定的で美しい海岸の保全、形成に関する研究	4月23日(水)13:00~14:30						
	活力ある経済社会を形成するための研究	ЗА	港湾・空港施設等の高度化に関する研究	4月15日(火)10:00~12:00						
3		3В	港湾・空港施設等の戦略的維持管理に関する 研究	4月17日(火)10:00~12:00						
		3C	海洋空間・海洋エネルギーの有効利用に関する 研究	4月24日(木)13:15~14:45						

表-1 テーマ内評価会の開催状況

2.2 内部評価委員会の開催状況

① 開催日時

2014年5月27日 10:00~17:00 2014年5月28日 10:45~16:00

② 評価対象

研究実施項目(2013年度終了15件)

特定萌芽的研究(2014年度追加分応募数4件)

③ 出席者

委員長 高橋理事長

委 員 福田理事、春日井統括研究官、

栗山特別研究官、山崎特別研究官、高橋特別研究官、菅野特別研究官、

野口特別研究官、角野特別研究官、荒井企画管理部長、下迫海洋研究領域長

オブザーバー 小島監事、大石監事

事務局 (野口特別研究官) 福元企画課長、林課長補佐、藤森係長、上中係員

2.3 研究実施項目の評価結果

2013年度に終了した研究実施項目は15件であり、評価の結果は、総合評価については114件が「高い」と判定され、残り44件が「やや高い」と判定された。

表-2 研究実施項目の評価結果

		研究成果					研究管理
研究実施項目名	総合評価	研究目標 の達成度	学術上の 成果のレベル	実用上の 成果のレベル	成果の活用の レベル (将来性を含む)	研究ポテンシャ ルの向上	研究管理のレベル
1A-1101-キ-234 レベル2地震に対応した荷役機械への免振・制振技 術の適用に関する研究	高い	高い	高い	<u>やや高い</u>	高い	<u>やや高い</u>	高い
1A-1102-4-218 平成23年東北地方太平洋沖地震のような長継続時間の地震動作用時の液状化特性把握に基づく判定 手法の提案	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
1B-1101-オ-400 リアルタイム津波浸水予測手法の実用化研究	高い	高い	高い	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	高い
1B-1102-オ-152 避難シミュレーションを用いた防災施設の減災効果に 関する研究	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>
1C-1102-オ-154 異常波浪を対象とした実験・計算手法の高度化	高い	<u>やや高い</u>	高い	高い	高い	高い	<u>やや高い</u>
2A-1101-カ-134 非静水圧3次元沿岸水理モデルの多機能化	高い	<u>やや高い</u>	高い	高い	高い	高い	<u>やや高い</u>
2A-1102-オ-112 内湾複合生態系モデルによる閉鎖性内湾の環境修 復事業効果の把握	高い	<u>やや高い</u>	高い	高い	高い	高い	高い
2A-1103-キ-112 海底境界面における 物質循環過程に関する解析	高い	高い	高い	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	高い	高い
2B-1101-オ-312 海底ゴミ回収技術の開発	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>
3A-1101-オ-216 固結性地盤における杭の軸方向抵抗力の評価手法 に関する研究	高い	<u>やや高い</u>	高い	<u>やや高い</u>	高い	高い	高い
3B-1102-オ-256 滑走路舗装の走行安全性能に関する性能低下予測 手法の構築	高い	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	高い	高い	高い	高い
3B-1103-キ-254 海洋コンクリート構造物における鉄筋腐食照査手法 の高度化	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u> やや高い</u>	高い	高い	高い	高い
3B-1104-カ-312 港湾・空港施設の点検技術の高度化に関する技術開 発	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>	<u>やや高い</u>
3C-1101-オ-154 リーフ上等の面的波浪場の解明とその推定に係る要 素技術の検討	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
3C-1103-オ-312 海洋における調査・施工の信頼性向上のための新技 術実証試験	高い	高い	<u> やや高い</u>	高い	高い	高い	<u>やや高い</u>

2.4 特定萌芽的研究(追加分)の評価結果

特定萌芽研究は、将来研究所が取り組む可能性がある萌芽的研究であり、2014年度の充当可能と見込まれる研究費を勘案の上、特定萌芽的研究の候補を選定する。

既に、昨年度末に開催された2013年度第2回内部評価委員会において、2014年度の特定萌芽的研究 3件「大水深域から浅海域までの高次波浪変形を推定可能な計算モデルの開発」「港湾施設の空洞を 即座にかつ高精度で検出する手法の確立」「ニューラルネットワークを用いた津波伝播計算」を選定 している。

今回は、2014年度追加分として特定萌芽的研究を所内公募し、応募があった4件の中から、内部評価委員会で評価した結果、表-3の通り「土粒子配列構造の再構築技術の開発と力学評価への応用」「粒子法を用いた構造物地盤の変形予測のための解像度可変型スキームの開発」「空洞化を未然に防止できる簡易センサーの開発」「舗装剥離検出に用いるバイオマーカーのフィジビリティスタディ」の4件を選定した。

表-3 特定萌芽的研究の評価結果

番号	研究項目名	所属T 担当者名	得票数	理由等		
1	土粒子配列構造の再構築技術の開発と力学評価 への応用	地盤研究領域 土質研究T 松村 聡		Reverese Engineeringを地盤工学分野に取り 組む独創性を評価する。		
2	粒子法を用いた構造物地盤の変形予測のための 解像度可変型スキームの開発	海洋研究領域 耐波研究T 鶴田 修己		高度な解像度可変型手法の開発に挑む意欲を 評価する。		
3	空洞化を未然に防止できる簡易センサーの開発	構造研究領域 構造研究T 野上 周嗣		現場・実用性を主体にした発想、及び再挑戦を 評価する。		
4	舗装剥離検出に用いるバイオマーカーのフィジビリ ティスタディ	構造研究領域 空港舗装研究 T 河村 直哉	5	バイオ技術の活用というユニークな発想を評価 する。		

〇印: 採用

2.5 総括審議

1) 2013年度の研究エフォートについて

2013年度の研究エフォートのとりまとめ結果について次の通り報告が行われた。

- ① 研究者が「研究の実施」と「研究の管理・支援」とに充てる各々のエフォート合計を事後(実績値)で比較するとほぼ60対40で推移しており、2013年度も同様(62:38)であった。
- ②「研究遂行の管理」は、全体的な傾向として、「研究遂行の管理」が12%前後、「研究のための環境創出」は8%、「行政の支援」は10%程度、「成果の普及」は、6~7%程度で推移している。
- ③「研究の実施」において重点研究課題の研究エフォートの割合は2013年度(実績値)で95.3%であった。

以上